

鹿苑寺(金閣寺)周辺エリア

～左大文字山・衣笠山・大北山村・きぬかけの道～

エリア概要

- 鹿苑寺及び等持院の一带では、大文字山の南麓に金閣寺が配され、西方には衣笠山、龍安寺山(朱山)などが広がる。この一带は社寺や別業の地として開かれたが、近代以降は整った住宅地として発展し、さらに戦後は立命館大学が立地し、その隙間を埋めるようにして住宅地化が進んでいった。
- 鷹峰、衣笠、鹿苑寺及び等持院の一带の山地部分、御室・花園地域の衣笠山から西山に連なる山地部は、歴史的風土特別保存地区の指定により、山林がきれいにまとまって保存されている。
- 鹿苑寺及び等持院の一带の民家の周りや龍安寺参道沿いには、生垣などの豊かな植栽空間が連続している。

- 視点場(境内)
- 視点場(参道等)
- 特に着目する通り
- (白線) 主な通り



左大文字山

鹿苑寺(金閣寺)の北方にそびえる山。例年8月16日の夜、山頂付近で大文字の送り火を点火する。村人たちの力で創始されたと考えられており、今でも地元住民の手で行われている。³⁾



鞍馬口通から見る左大文字

鹿苑寺(金閣寺)

(世界遺産)

北山と号し、臨済宗相国寺派。足利義満が営んだ北山殿の舍利殿を中心とする。¹⁾



池越しに金閣を見る

鹿苑寺(金閣寺)の庭園は、衣笠山周辺の山麓部を借景としている。周辺の宅地化の進展に合わせ、境内を取り囲むように高木が植樹されている。



衣笠山

絹張の長柄の傘(衣笠)に似た山形で、森林が全山を覆う。



きぬかけの道から見える衣笠山

大北山村(鹿苑寺(金閣寺) 門前集落)

大北山村は、鹿苑寺(金閣寺)の門前町である。この地域は、鹿苑寺との関係が非常に強かった。²⁾ 近代の農家の形式を継承する農家住宅等が一部残る。



屋敷風の建物



農家風の建物

鹿苑寺(金閣寺) 参道 (鞍馬口通・きぬかけの道)

鹿苑寺(金閣寺)に面するきぬかけの道及び参道(鞍馬口通)の歴史的な町並み及び連続する石垣・樹木等によって一体的に構成されている。

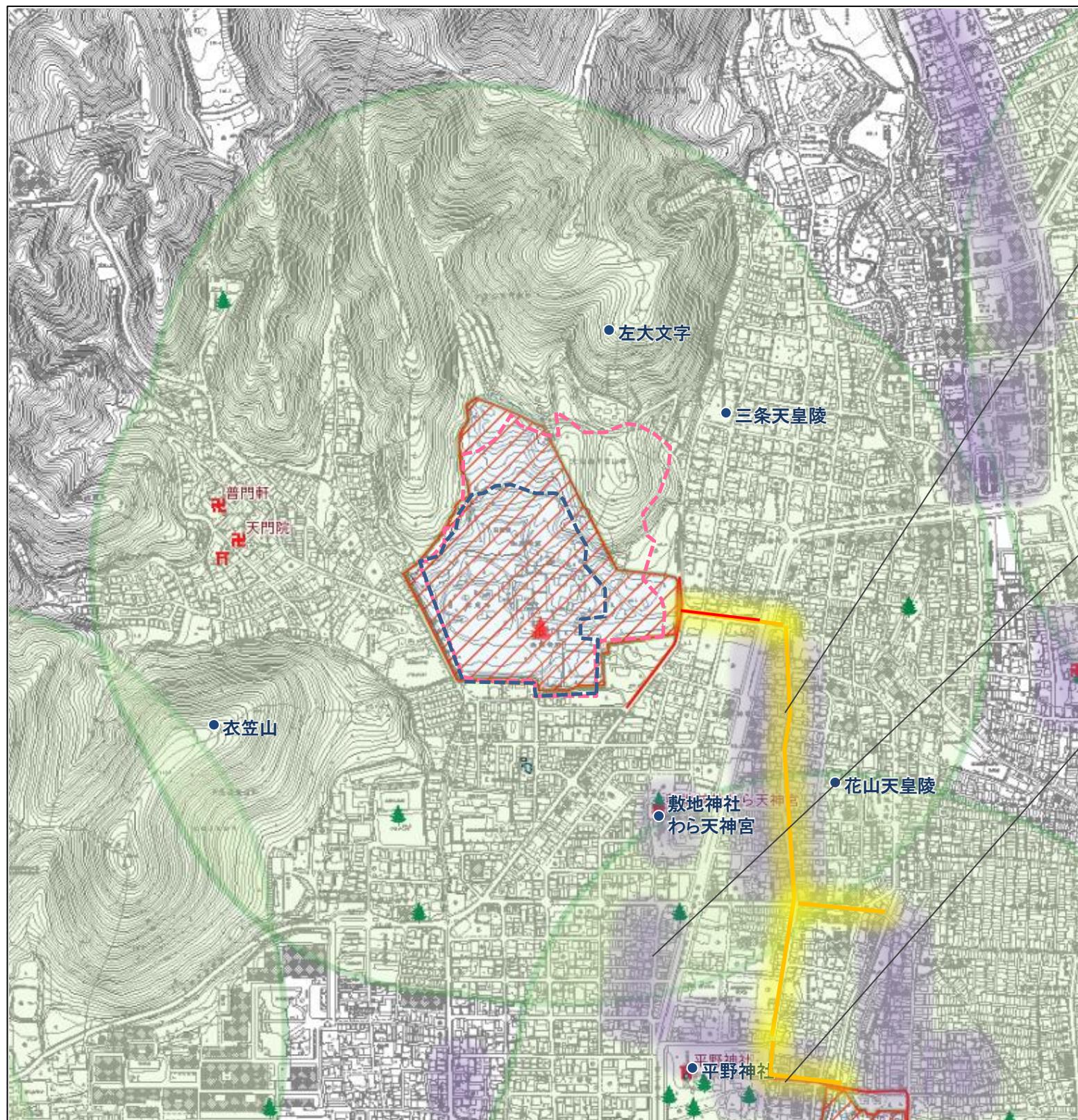


参道(鞍馬口通)



きぬかけの道

エリアの概要



大北山村

村は純然たる農村ではなく、鹿苑寺（金閣寺）の門前町の性格を早くから兼ね備えたという。⁴⁾ この地域は寺社に対して税を納めたり課役を負担したりするなど、寺社との結びつきが強い地域である。⁵⁾ 近代の農家の形式を継承する農家住宅等が一部残る。



屋敷風の建物



農家風の建物

小北山村

小北山村は、ほぼ中央に平野神社があり、この平野社を軸に展開した。鹿苑寺境内の山請けを行うなど、協力関係を保持していたという。⁶⁾

平野神社門前

北野天満宮とつながる道沿いに、明治25年時点で市街化が見られた。

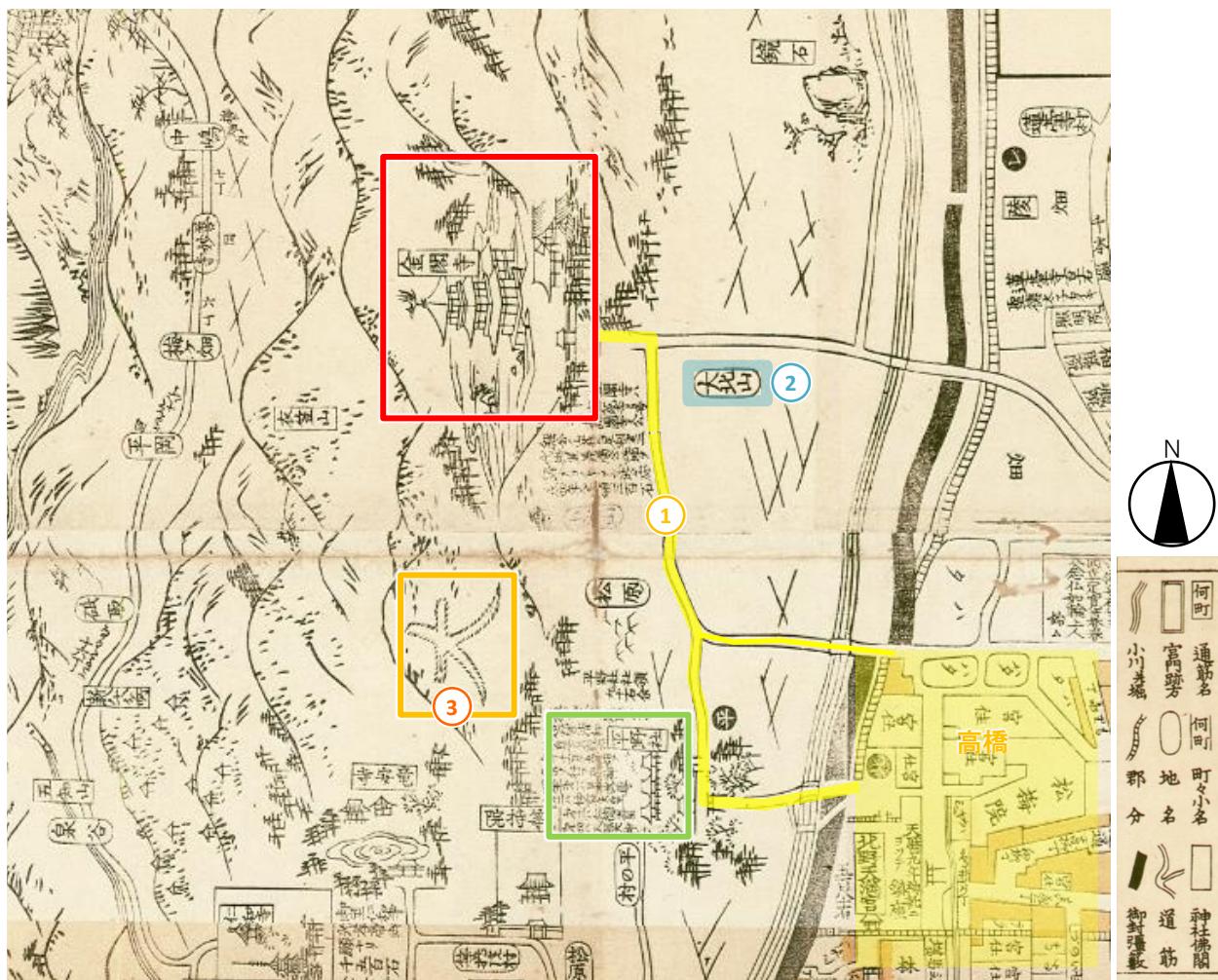
【凡例】		建築物・庭園	樹木		
	視点場（境内）		景観重要建築物・歴史的風致形成建築物		天然記念物
	視点場（参道等）		歴史的意匠建築物		保存樹
	近景デザイン保全区域		界わい景観建築物		・区民の誇りの木
	特に着目する通り		京を彩る建物や庭園		
	明治25年以前から存在する市街地		文化財（建築物）		
	界わい景観整備地区		文化財（史跡・名称）		明治16-18年時点の境外
			国土地理院社寺データ等		明治16-18年時点の境内

※ 国土地理院の数値地図2,500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1,000m²以上の社寺データ

※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

エリアの土地利用の変遷 (1)

明治2年(1869年)(上地政策による境内地減少前)



京町御絵図(明治2年)

①金閣寺への参道

高橋から鹿苑寺へ通じる道は、近世京都の観光ルートとして知られ、北野天満宮から平野神社あるいは高橋を経て大北山村の集落を抜けて鹿苑寺へ至る巡覧路であったことが知られている。⁷⁾

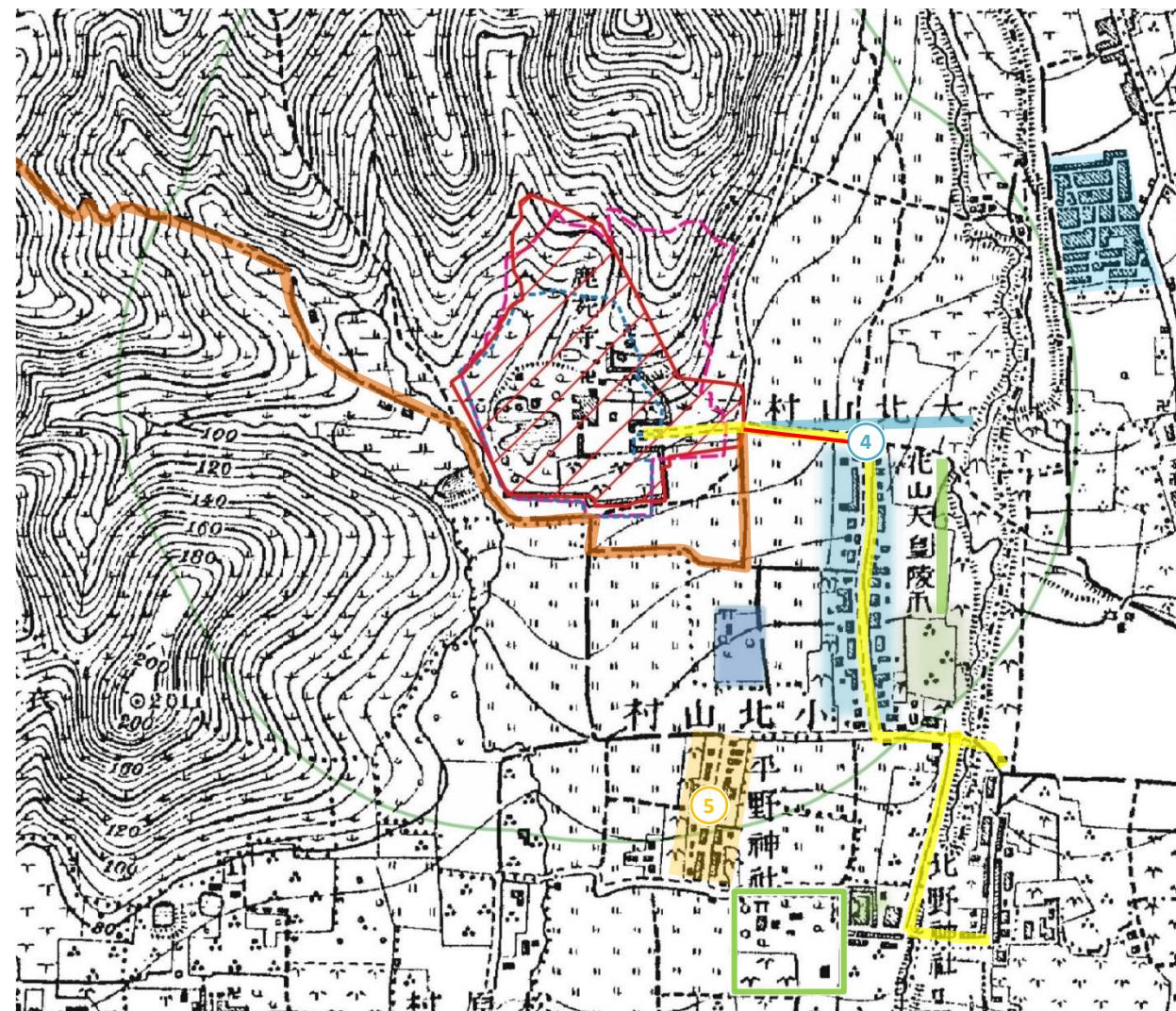
②大北山村

大北山村の成立には鹿苑寺の創建が大きなきっかけとなったようで、村は純然たる農村ではなく、門前町の性格を早くから兼ね備えたという。⁸⁾『京都御役所向大概覚書』の中の「洛外寺社門前境内之事」には「北山鹿苑寺 大北山村」とあり、洛外の行政を担当した雑色による人口調査が行われない地域のひとつにあげられている。これらの地域は寺社に対して税を納めたり課税を負担したりするなど、寺社との結びつきが強い地域といえ、鹿苑寺と門前集落である大北山村の関係が非常に強かったことが分かる。⁹⁾

③左大文字

『山城四季物語』には記載があり、鹿苑寺(金閣寺)の北方にそびえる山。例年8月16日の夜、山頂付近で大文字の送り火を点火する。村人たちの力で創始されたと考えられており、今でも地元住民の手で行われている。¹⁰⁾

明治25年(1892年)



- 明治16-18年時点の境外地
- 明治16-18年時点の境内地
- 特に着目する通り
- 近景デザイン保全区域
- 視点場(境内)
- 視点場(参道等)

資料: 仮製地形図(明治中期)
(国土地理院所蔵)
画像: 立命館大学アート・リサーチセンター

④大北山村

大北山村は、道の両側に建物が描かれる。鹿苑寺に至る南北の道沿いの両側に門前町を形成していたことが読み取れる。

⑤小北山村

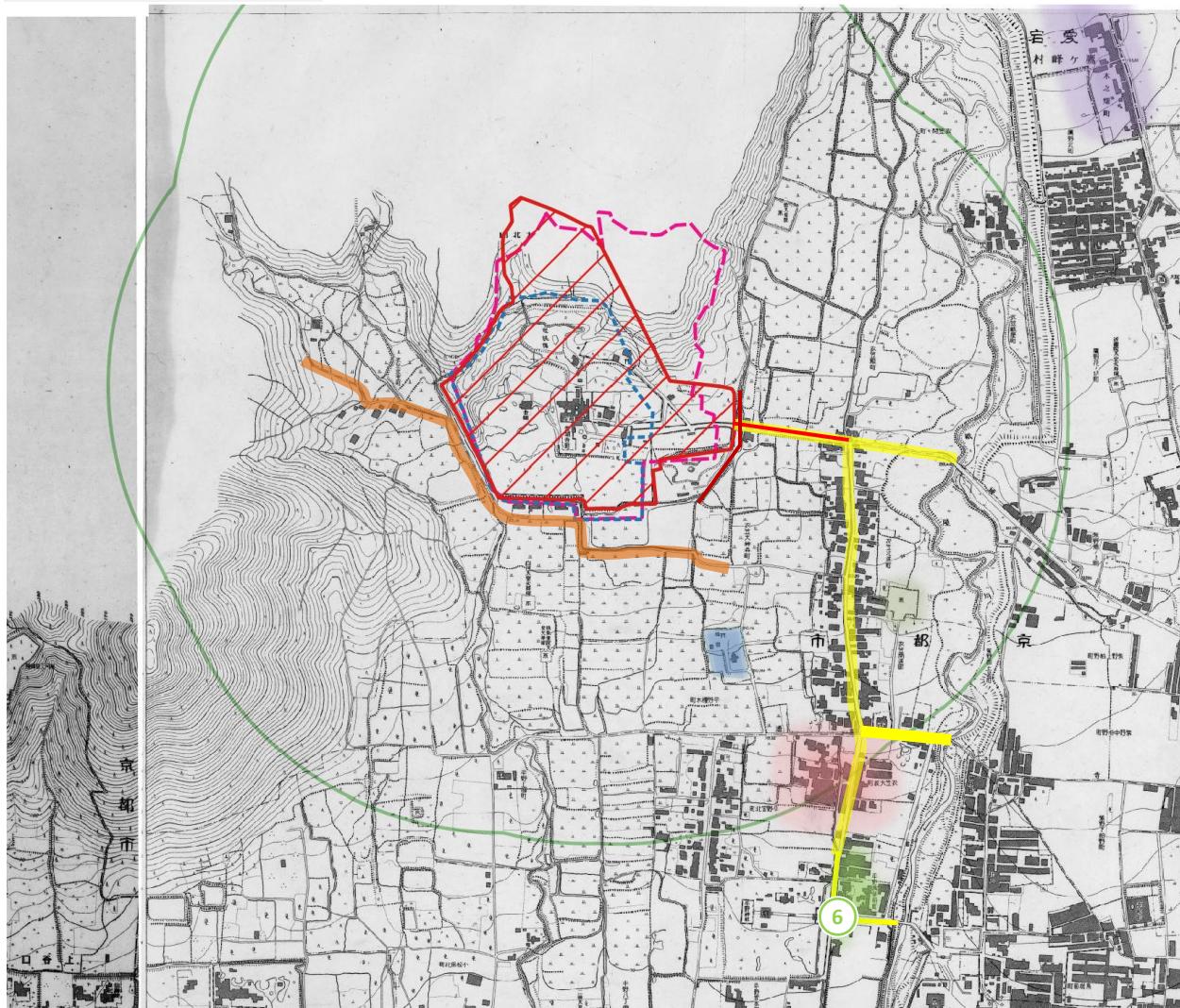
小北山村は、ほぼ中央に平野神社があり、この平野社を軸に展開した。鹿苑寺境内の山請けを行い、また大北山村域の井堰の決壊の折は修復にかかわり、協力関係を保っていたという。¹¹⁾



文化5年(1808年)「華洛一覽図」

エリアの土地利用の変遷 (2)

大正11年(1922年)



※ この地図は、京都市発行の都市計画基本図(縮尺1/3,000)を参考にし、作成したものです。

資料:京都市都市計画基本図(大正11年)
(京都大学文学研究科所蔵)
画像:立命館大学アート・リサーチセンター

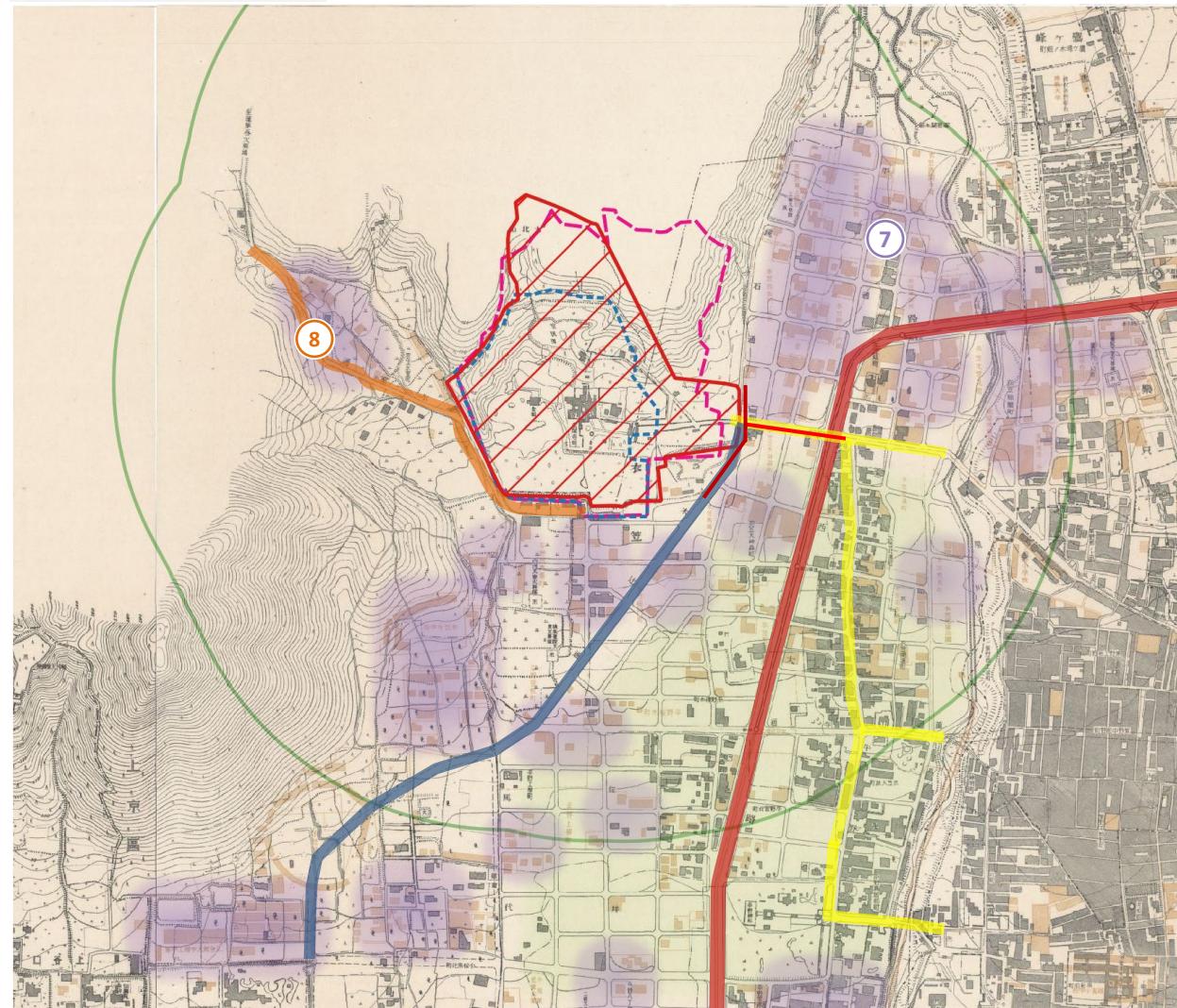
⑥平野神社門前

北野天満宮とつながる道沿いにも門前集落が見られるようになっている。

○衣笠村

大北山村・小北山村・松原・北野村・等持院村・大將軍村にわたる地域で、明治22年の市制・町村制施行以降、京都市に合併されるまで衣笠村として一括された。¹²⁾

昭和28年(1953年)



■ 昭和10年都市計画図の内容
■ 昭和28年の修正測図

資料:京都市都市計画基本図(昭和28年)
(京都市都市計画局(京都市指令都企計第90号))
画像:立命館大学アート・リサーチセンター

⑦衣笠村一帯

昭和6年から昭和16年にかけて区画整理事業が行われ、木辻通が完成し、西大路通が昭和初年から十年代までに都市計画道路として完成したことで、市街化は進んできている。¹³⁾

⑧大北山村

大北山村は大文字に関係が深い集落である。左大文字の送り火は、かつては大北山村の人々の奉仕により行われていた。大北山村が京都市に編入された現在は「左大文字保存会」が結成され、行事が続けられているという。平成元年には、35世帯が加入していたという。若い会員も熱心に働き、五山送り火の地元に根付いている共同体としての意識がうかがえる。¹⁴⁾

鹿苑寺(金閣寺)の歴史的資産と守っていききたい眺め

鹿苑寺(金閣寺)

鹿苑寺は、鎌倉時代に造られた貴族の別荘を、将軍位を退いた足利義満が応永4年（1397）に譲り受け、粹を尽くした別邸北山殿に造り替えたものであり、さらに義満の死後応永29年（1422）に、夢窓疎石を開山とする禅寺鹿苑寺とされたことに始まる。その後衰微したが、江戸時代に金閣および庭園の修理がなされた。

庭園は、衣笠山を借景に、既存の池にさまざまな名石を据え、池に向かって三層の豪華な舍利殿金閣を据え、山上に展望所を建てている。現在この庭園は鹿苑寺庭園として特別史跡、特別名勝に指定されている。金閣は、屋根を柿葺とし、第二・三層全面に金箔を押しという、北山文化の象徴となる華麗な建築で、義満の権威が示されている。なお、昭和25年（1950）の火災で金閣が焼失したが、昭和30年（1955）に復原的に再建された。この再建にあたっては、明治37年（1904）の修理事業において完成された詳細な図面を用いることにより、正確な復原が可能となった。¹⁵⁾

文化財

国指定特別史跡及び特別名勝	庭園	283
---------------	----	-----

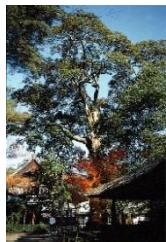
〔国指定特別史跡及び特別名勝〕



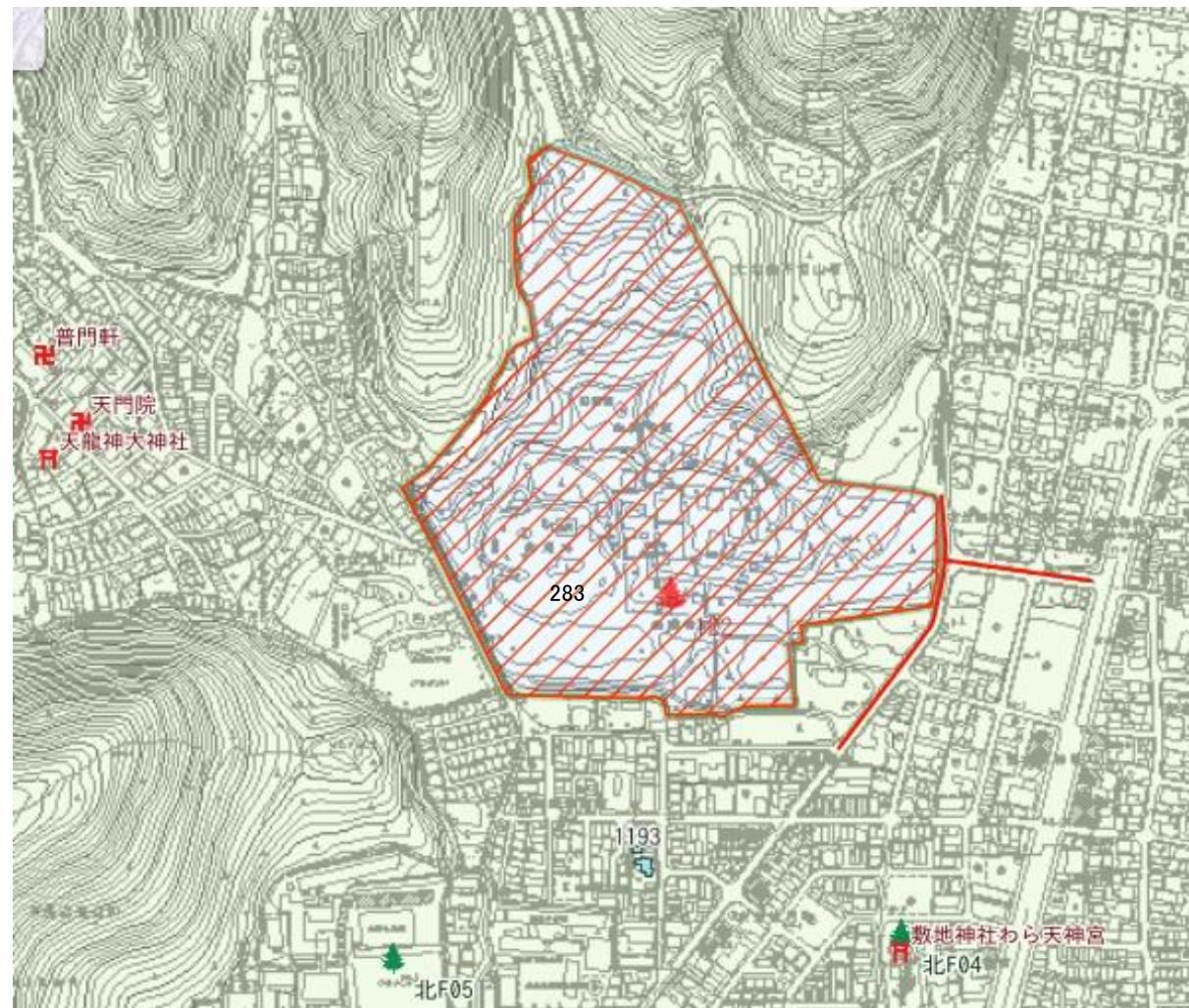
庭園

樹木

イチイガシ：鹿苑寺 [天然記念物]



▲122



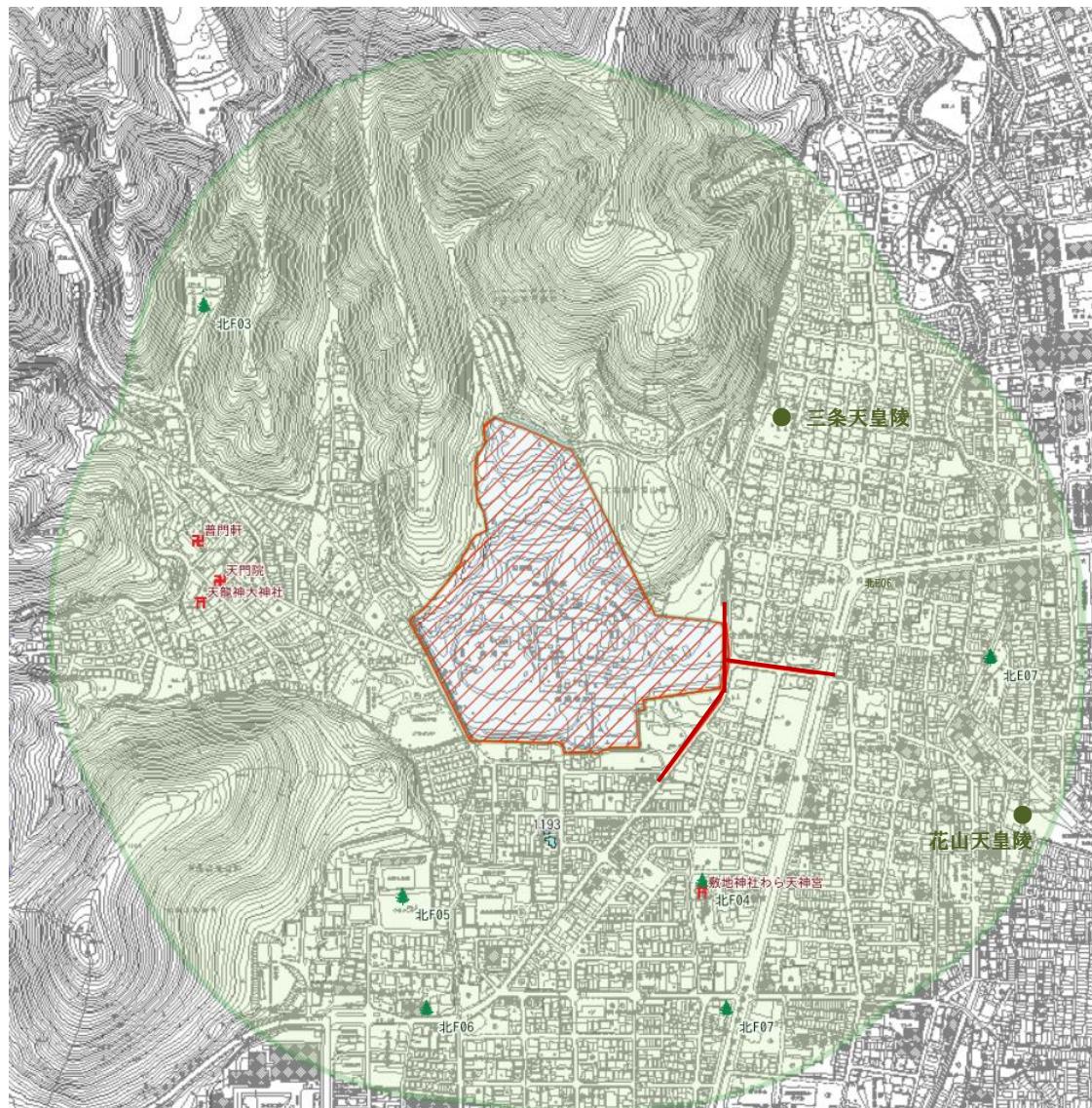
※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

- | | | |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 視点場（境内） 視点場（参道等） 近景デザイン保全区域 | 建造物・庭園 <ul style="list-style-type: none"> 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物 歴史的意匠建造物 界わい景観建造物 京を彩る建物や庭園 文化財（建築物） 文化財（史跡・名称） 国土地理院社寺データ等 ※ | 樹木 <ul style="list-style-type: none"> 天然記念物 保存樹・区民の誇りの木 |
|--|---|--|

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

鹿苑寺(金閣寺)周辺の歴史的資産



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

	視点場（境内）		建造物・庭園 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物		樹木 天然記念物
	視点場（参道等）		歴史的意匠建造物		保存樹・区民の誇りの木
	近景デザイン保全区域		界わい景観建造物		京を彩る建物や庭園
			文化財（建築物）		
			文化財（史跡・名称）		
			国土地理院社寺データ等 ※		

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

敷地神社(わら天神宮)



※

北区衣笠天神森町にある神社。正しくは敷地神社。祭神は木華咲耶姫尊。旧大北山村の産土神。創祀時期は不詳。天長5年（828）淳和天皇が当社に勅使を遣わし、止雨を祈願した。かつては北山の神と呼ばれ、北山天神の丘にあったが、足利義満が北山殿を造営した折、現在地に移したという。安産の神として信仰され、当社の授けるわらの御符に節があれば男児、節がなければ女兒が生まれるといい、通称はこの信仰にちなむ。例祭は4月第1日曜日。¹⁶⁾

ツブラジイ 北F04

【区民の誇りの木】



わら天神は「腹帯天神」と呼ばれ、安産の神として知られています。ツブラジイは社殿の東側にあり、4mの幹周を誇る大木に育っています。

平野神社



二条天皇陵の東方にある。「延喜式」神名帳の葛野郡に「平野祭神四社（並名神大、月次新嘗）」と載る式内社で、22社に列する（二十二社註式）。祭神は今木・久度・古開の三神および相殿比売神の四座。¹⁷⁾

花山天皇陵

安和元～寛弘5（968-1008）第65代。冷泉天皇の第一皇子。母は藤原伊尹の女懐子。名は師貞。法号入覺。安和2年円融天皇の皇太子となり、永観2年（984）即位。寛和2年（986）在位3年にして一条天皇に譲位。外祖父の座を狙う藤原兼家が息子の道兼とはかり、花山天皇を山科の元慶寺に連れ出して出家・譲位させたと伝える。風流好みで知られたが、出家後は仏法修行に励み、諸山名刹を遍歴し、各地に伝承がのこる。和歌にすぐれ「花山院集」がある。陵墓は北区衣笠北高橋町の紙屋上陵。小円墳で陵上に菩提樹を植える。¹⁸⁾

三条天皇陵

貞元元～寛仁元（976-1017）第67代。在位寛弘8年～長和5年（1011-16）。冷泉天皇の第二皇子。母は贈皇太后藤原超子。名は居貞。左大臣藤原道長の全盛期で、その圧力をうけた。道長の女妍子が中宮となるが男子なく、皇后娥子所生の敦明親王（小一条院）の立太子とひきかえに退位させられたが、その約束は果たされなかった。御陵は北区衣笠西尊上院町の北山陵。¹⁹⁾

鹿苑寺(金閣寺)周辺のその他の歴史的資産

文化財(建築物)、史跡・名勝 等

[国登録文化財]



西川家住宅主屋※
国登録



西川家住宅土蔵※
国登録

樹木

ケヤキ：紙屋公園

北E06、北E07

[区民の誇りの木]



この公園は紙屋川沿いにあります。これら前からこの地にあったケヤキは公園の開園以来のもので、幹周りとともに4mを超え、樹高も付近のケヤキの中では飛び抜けて高く、威風堂々とした姿をしています。

ヤマザクラ：大北山公園

北F03

[区民の誇りの木]



階段状に整備された公園の一角に育つヤマザクラが広場に華やぎをもたらします。

クログネモチ：金撰八幡宮 [区民の誇りの木]

北F07



形の整ったクログネモチで、秋には赤い実がひととき目立ちます。

ソメイヨシノ：衣笠中学校

北F05

[区民の誇りの木]



東福寺の開山(13世紀)とゆかりの深い木で、江戸期の名所図会には開山国師が宋国(中国)から携えてきたと記載されている古樹です。

イチョウ：平野上柳町(立命館大学前)

北F06

[区民の誇りの木]



立命館大学前にあるバス停留所の分離帯の街路樹です。夏の緑や秋の黄葉は、背後にある堂本美術館の白い建物とよく調和しています。

景観の特性と形成方針（京都市景観計画 抜粋・要約）

西山風致地区

【概況】

当地区は、鷹ヶ峰、衣笠地区、金閣寺及び平等院の一带、御室・花園地域、梅ヶ畑、太秦、蚕の社周辺から構成され、鷹ヶ峰、衣笠、金閣寺及び平等院の一带の山地部分、御室・花園地域の衣笠山から西山に連なる山地部は、山林がきれいにまとまって保存されており、原谷盆地の周囲の樹林、沢ノ池を中心とする沢山の森林も、林業による植林等により、きれいにまとまって保全されている。

また、社寺の境内地にも緑が多く、妙心寺境内は西側の双ヶ岡の展望台から眼下に見え、北側の仁和寺一带とともに緑濃い一画を形成している。市街地内に存する双ヶ岡、法金剛院周辺についても本地域の景観を形造る一団の緑地となっている。

金閣寺及び平等院の一带の民家の周りや龍安寺参道沿いには、生垣等の豊かな植栽空間が連続し、立命館大学では、きぬかけの道側に修景上有効な植栽が施され、山ろくやその周辺の宅地では、敷地規模も大きく緑化も行き届いている。

さらに、広隆寺及び蚕の社のこんもりとした緑は、それぞれ地域のシンボリックな存在となっている。

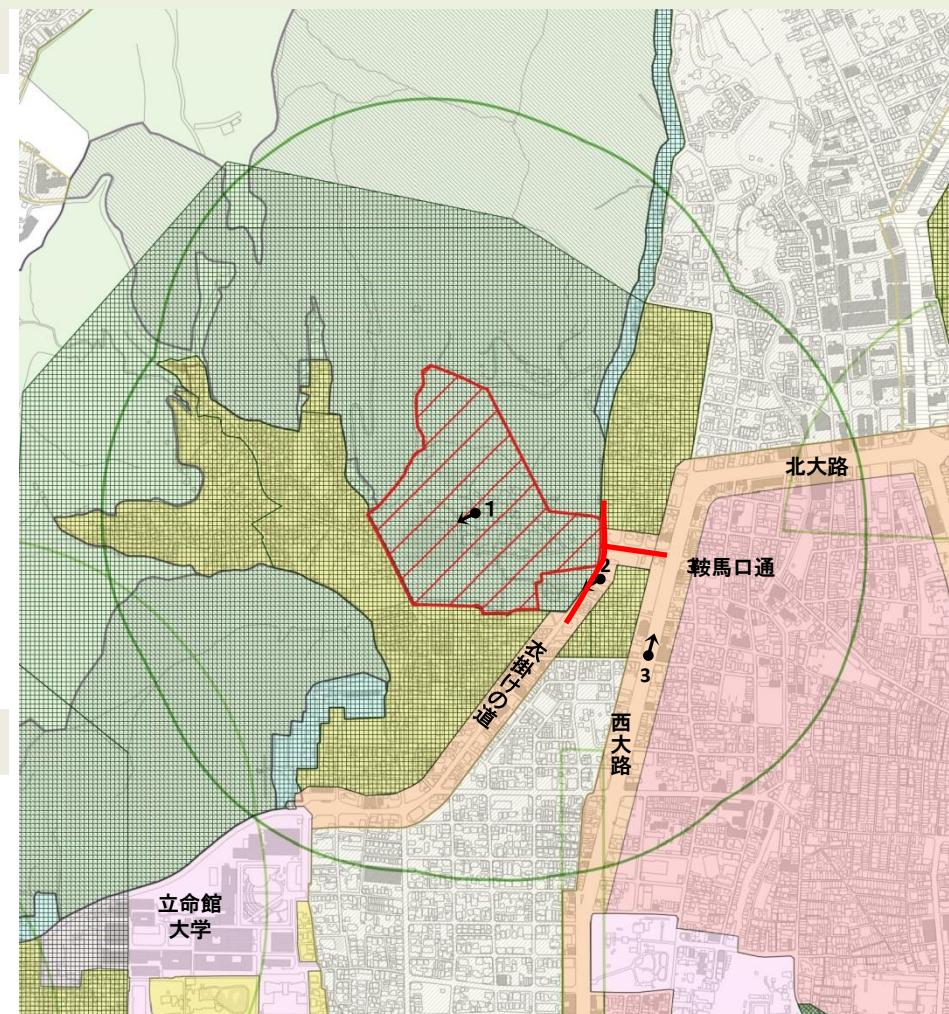
【良好な景観の形成に関する方針】

●金閣寺及び平等院の一带の美しい山容や落ち着いた和風空間

金閣寺及び平等院の一带は、松林に覆われた美しい山容を持つ衣笠山の麓に広がる市街地であり、この地区の山ろく部は、金閣寺の借景となっており、この山ろく部の改変の規制、社寺境内地や立命館大学を含め、この地区の主要な構成要素である大規模施設の外構デザインにより風致・景観の保全を図る。平等院付近の住宅地は、落ち着いた雰囲気をもっており、赤坂地区では、日本瓦ぶきの住宅で大半の和風空間が形成されている。これらの落ち着いた和風空間の保全を図る。



1) 金閣寺境内から見た衣笠山



沿道型美観形成地区(きぬかけの道地区)

きぬかけの道地区は、金閣寺前から立命館大学正門前までの通り及びその沿道を含む。きぬかけの道という名称は、昭和末頃に地元主導によりつけられたものであり、金閣寺前から竜安寺を経て仁和寺に至る観光道路である。沿道の住宅地は、風致地区に指定し、景観規制を行っている。北山山ろくの風趣と垣間見える京都中心部を見下ろす、眺望を楽しめる代表的な沿道である。

このため、沿道に面した建築物は、京都らしい繊細で洗練された勾配屋根を基本とする和風意匠により通り景観の保全に配慮する。また、通りの眺めを阻害するような建築物の色彩を禁止するとともに屋上景観等の整備に努める。



2) きぬかけの路沿道

沿道型美観形成地区(西大路・北大路通)

西大路・北大路通地域は、北大路通から円町までの西大路通とその沿道及び大徳寺前から西大路通までの北大路通とその沿道から構成される。西大路通及び北大路通は、昭和初期に中心市街地を囲む環状道路として計画された幹線道路である。特に、北大路通の沿道には、大徳寺や船岡山等の観光名所があり、西行すると左大文字を眺望することができる。北大路通から連続する西大路通の北部の沿道には金閣寺や平野神社等の観光名所があり、北行すると左大文字山が正面に眺望できる。

このため、建築物は、外壁の位置を道路から後退し、夜間照明を工夫することにより賑わいのある歩行者空間の充実を図るとともに、左大文字山の眺望を阻害することがないように、建築物の色彩や屋上景観等の整備に努め、良好な眺望や通りの景観の形成を図る。

また、北大路通沿道の大徳寺及び西大路通沿道の平野神社の土塀や樹木等が、特徴的な通り景観を形成している。このため、大徳寺や平野神社などの社寺周辺においては、それらの土塀や樹木等と調和の取れた形態意匠とすることにより、歴史的景観の保全を図る。



3) 西大路通(北向き)

【凡例】

眺望景観保全区域

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域

風致地区

- 風致地区第1種地域
- 風致地区第2種地域
- 風致地区第3種地域
- 風致地区第4種地域
- 風致地区第5種地域
- 風致特別修景地区

建造物修景地区

- 山ろく型建造物修景地区
- 山並み背景型建造物修景地区
- 岸辺型建造物修景地区
- 町並み型建造物修景地区

その他

- 伝統的建造物群保存地区
- 歴史的風土保存地区
- 歴史的風土特別保存区域

景観地区

- 山ろく型美観地区
- 山並み背景型美観地区
- 岸辺型美観地区
- 旧市街地型美観地区
- 歴史遺産型美観地区 一般地区
- 歴史遺産型美観地区 歴史的景観保全修景地区
- 歴史遺産型美観地区 界わり景観整備地区
- 重要界わり景観整備地域
- 沿道型美観地区
- 市街地型美観形成地区
- 沿道型美観形成地区

※ 詳しくは、京都市景観情報共有システムを御確認ください。

(資料)

- 1) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.737
- 2) 小林善仁. 「近代初頭における京都近郊の景観—鹿苑寺境内地と大北山村を事例に一」. 佛教大学総合研究所紀要別冊 洛中周辺地域の歴史の変容に関する総合的研究. 2013. p.
- 3) 岩田英彬. 京の大文字ものがたり. 松籟社. 1990. p.79-p.80
- 4) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第6巻 北区. 平凡社. 1985. p.340
- 5) 小林善仁. 「近代初頭における京都近郊の景観—鹿苑寺境内地と大北山村を事例に一」. 佛教大学総合研究所紀要別冊 洛中周辺地域の歴史の変容に関する総合的研究. 2013. p.
- 6) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第6巻 北区. 平凡社. 1985. p.340
- 7) 小林善仁. 「近代初頭における京都近郊の景観—鹿苑寺境内地と大北山村を事例に一」. 佛教大学総合研究所紀要別冊 洛中周辺地域の歴史の変容に関する総合的研究. 2013. p.
- 8) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第6巻 北区. 平凡社. 1993. p.340
- 9) 小林善仁. 「近代初頭における京都近郊の景観—鹿苑寺境内地と大北山村を事例に一」. 佛教大学総合研究所紀要別冊 洛中周辺地域の歴史の変容に関する総合的研究. 2013. p.
- 10) 岩田英彬. 京の大文字ものがたり. 松籟社. 1990. p.79-p.80
- 11) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第6巻 北区. 平凡社. 1985. p.340
- 12) 同上、 p.306
- 13) 千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路. 小学館. 1994. p.104
- 14) 岩田英彬. 京の大文字ものがたり. 松籟社. 1990. p.79-p.80
- 15) 第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会. 千年の都 世界遺産. 古都京都の文化財(京都市・宇治市・大津市). 第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会. 1998. p.146
- 16) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.1001
- 17) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.583
- 18) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.172
- 19) 同上、 p.443